

校名・校木の由来及び校章について

昭和22年の創立時には、仙台市立第八中学校という名で誕生したが、昭和25年3月に現在の東華中学校と改称された。

- (1) 校名の由来は古く、明治19年、時の宮城県知事松平正直が、万葉集「すめろぎの御代^{みよ}栄えむと東なるみちのく山にくがね華^{はな}さく」(大伴家持)の歌から東と華をとって命名した私立の「東華学校」に始まる。

この後、東華学校が学校改革に伴い宮城県第一中学校(現 宮城県仙台第一高等学校)に編入されるに及んで、次には私立の「東華女学校」(現 宮城県仙台二華中学校・高等学校)として、その校名が受け継がれたという歴史を持っている。この2校とも現在の学区にあることから、その名声と伝統とを鑑にしたいとの願いを込めて「東華中学校」と名付けられ、今日に至っている。

- (2) 校木「かしわ」は、やせ地と乾癆に耐え、潮風にも強く、地表が浅く石ころの多い土地にも生えている樹木である。いたずらに成功を急ぐのではなく、困難とたたかいながら理想の光を求めて一筋に勉学と修養に励む、質実剛健で志気に満ちた人を象徴している。

- (3) 校章について

質実剛健を「かしわ」であらわし、それを「ペン」の知性でひきしめたデザインである。「かしわ」の3枚の葉は、「真実の心・自律の心・共生の心」を意味し、それに支えられている「ペン」は理想の光を求めながら勉学に励み、自ら未来を拓く「知性の心」を表している。

